

空知町村議会議員研修会

長谷川秀樹

7月11日、秩父別町において開催され全議員が参加し、前神奈川県大和市長・土屋侯保氏の「自治の興廃は地方議会にあり」と題して、講演を聴講した。

氏は議会議員2期、首長3期努めた実績があり、それを踏まえて、二元代表制の相反する立場を経験した故のウソクある内容の講演であった。

「議会とは何か」、「議会の果たす役割とは何か」等々、住民から議会軽視、議会不要論まで囁かれる中、住民から信頼され信託される議会はいかにあるべきか。首長の従属機関になつてはいないか、是非々の対応が出来ているか、情報公開をしっかりとやっているか、間接民主制の原点に返り役割を果たすことが肝要である。更に議員としての資質を高め、政策提案や条例の制定が出来るまでの能力も必要である。終わりに、住民参加の協働のまちづくりを称える地方自治体が多いが、これ

は議会軽視ではなく、そんな今だからこそ議会の果たす役割が重要で議会のない民主主義はないと結び終了した。

本町の議会も町民に信頼され必要とされる真の議会を目指して、議会活性化特別委員会を設置し検討を重ねている。分かり易い親しまれる議会、無くてはならない議会を念頭に置いて、早期に結論を出して実践してまいりたい。



中空知ふるさと市町村圏議員交流会

平澤 豊勝

今年度の中空知市町村圏議

員交流会は雨竜町ふれあいセンターで開催され、NPO法人シーズネット代表・岩見太市氏の講話を拝聴した。

その概要を報告すると、シニア（50代以上）自身が主体的な生き方を目指すため、「仲間づくり」や「役割づくり」をキーワードにグループをつくり、シニア層が自立して豊かに高齢化社会を生きようとするものである。シーズネットは、サークル・グループ活動（22グループ）、地域単位のサロン活動、社会活動、研修会、交流会、広報活動など幅広く活動しており、会員は、個人会員が800名、団体会員20名、賛助会員10名である。

活動の中で注目されるのは、孤立死ゼロ推進センター（札幌市委託事業）、ひとり暮らし高齢者安心ネットワーク事業、入居者支援ほっと安心クラブなどで、行政が回りきれない重要な事業にも努力されている。孤独死を防止するための最大の課題は、市民一人一人が孤立した老後の暮らしを送らないこと。そのため本人の自助努力、地域における人間関係づくりの配慮、さらに何かあった場合の共助を

中心とした仕組みづくりが不可欠で、団地やマンション管理者と具体的な支援方法や仕組みづくりを工夫しなければならぬ。高齢期を襲う様々な社会現象にどのように対応するのか、大きな課題である。

福祉のまちづくりとは、孤立する住民を増やさぬよう住民同士がいかに結びついていくか、また、企業や学校、そして商店街などの地域の各種団体のネットワーク構築が重要となる。これらがうまくいくと、住民は住んで良かったと思える精神基盤が育まれ、心豊かに安心して住み続けられるまちなちになると思う。

今日、少子高齢化や人口減少社会となり、社会保障制度も変化し、加えて市町村財政の硬直化により、地域社会の福祉がますます不安定となっているが、私たちはこれまでのように「公助」を頼るだけではなく、住民同士の「共助」機能を拡充して、福祉行政と手を携えることが必要であると結んだ。

編集後記

初めての母村訪問、奈良県十津川村の水害慰霊祭に参列し、先人に鎮魂する。杉と松の山また山、そしてカーブの続く道路に驚愕。民俗資料館では歴史の深さを再実感。

現在、新十津川町議会では、議会活性化委員会にて色々と協議しておりますが、その中の一つとして一般質問に一回一答方式を採用することに、試みとして今回の定例議会より実行いたしました。初めての事で不慣れであり、若干ちぐはぐな面もありましたが、一つの質問に対して、より深く討議が出来るものと確信しております。

これからも、より住民の皆さまのニーズに沿うよう様々な形で議会の活性化に向けて協議し、実行に移していく所存です。（岩木）

【議会広報特別委員会】

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 西永 勝治 |
| 副委員長 | 樋坂 里子 |
| 委員 | 青田 良一 |
| | 山田 秀明 |
| | 笹木 正文 |
| | 岩木 雅徳 |